

## 令和元年度 第1回 八千代市通学区域審議会記録

日時	令和元年6月19日 17時45分から19時30分
場所	八千代市教育委員会大会議室
議題	議事 八千代市立小中学校通学区域の現状と対応について 各小・中学校の児童・生徒数の推計について みどりが丘小学校及び新木戸小学校の通学区域と今後の対応について 許可学区について
公開又は 非公開の別	公開
出席者	<以下敬称略> 村山和一, 鷹野元嗣, 周郷紀男, 小竹祐二, 江口弘幸 金子文一, 齊藤裕一, 北林義博, 相馬剛, 岡俊博
事務局	教育次長 吉村昌彦, 学務課長 長島秀一 指導課長 嶺岸秀一, 保健体育課長 加藤英昭 事務局員 兒玉健司, 丹治貴史, 村瀬正
傍聴者定員	7名
傍聴者	6名

審議会長 はじめに、八千代市立小中学校の通学区域の現状と対応について、これを議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

事務局員 それでは、議事に先立ちまして、本年3月議会及び6月議会において、通学区域に関する質問及び答弁がありましたので、ご報告いたします。

まず1点目として、高山議員より3月議会において、就学指定校の変更、いわゆる学区外からの就学について、文部科学省の通知にもある通学の利便性についての質問がありました。これから審議いただくみどりが丘小学校通学区域の再編成の際にも過去の経緯や市民の多様性を踏まえた対応をしてほしいとの要望もございました。また、現在学務課には市民からも通学の利便性を踏まえた指定校変更の要望もありますので、十分にその点を踏まえたうえでの審議をどうぞよろしくお願いいたします。

また、飯川議員より3月議会及び6月議会において、緑が丘西地域における中学校の新設の有無について質問がございました。緑が丘西地域は、小学校がみどりが丘小学校学区に対し、中学校区は、高津中学校と睦中学校になっております。現時点では、両校の6年後の推計でも学級数に大きな変化はありませんが、緑が丘西地域の人口は増加傾向にありますので、この点においてもご承知おきくださいませ。

それでは、資料の1ページをご覧ください。この資料は、今後審議し

ていただく際の通学区域設定の原則としてお示ししているものになります。時間の関係で、全てを読み上げはしませんが、6. 「その他」をご覧ください。学校適正規模について、国の基準と八千代市の基準が記載されていますので、ご確認をお願いいたします。

2ページをご覧ください。令和元年度八千代市立小中学校の通学区域の現状についての資料になります。地区別に要点だけ、ご説明いたします。

阿蘇・米本地域においては、小中一貫校(義務教育学校)設立を目指して関係部局と調整してきましたが、課題が明確となりました。そこでより良い教育環境を早期に整えるために、施設分離型の小中一貫校の設立を目指すということに方針を変更しました。

村上地域につきましては、村上北小学校が増加傾向にあるのに対して、その他の村上小・中学校、村上東小・中学校は横ばい、もしくは減少傾向にあります。

睦地域につきましては、小中学校においては大きな変動はございません。しかしながら、睦中学校南側においてここ数年宅地開発が進んでおります。

大和田地域につきましては、大和田南小学校が児童数の増加により、教室に余裕が無くなってきている状態です。しかし、その他の4つの小学校、大和田小学校、大和田西小学校、萱田小学校、そして萱田南小学校は減少傾向にあります。また、大和田中学校、萱田中学校もここ数年は横ばい、もしくは減少傾向にあります。

高津・緑が丘地域につきましては、緑が丘駅前の大型マンションの入居や一昨年「緑が丘西1丁目から8丁目」と町名地番整理が実施された「はぐみの杜」の開発が進んでおります。そのため、みどりが丘小学校の児童は、増加傾向にあります。昨年度に比べ、在籍児童数は普通学級、特別支援学級を合わせて113名の増加、学級数は5学級増加しています。その他の小中学校においては、横ばいもしくは減少傾向にあります。

八千代台地域と次の勝田台地域に関しては、大きな変動がございません。以上、通学区域の現状と対応について報告いたしました。ご意見、ご質問等がございましたらお願いいたします。

審議会長

ただ今、八千代市立小中学校の通学区域の現状と対応についてということで、事務局より説明がございました。このことについて、質問あるいはご意見等ございましたら、お願いをいたします。

無いようですので、次の議事に移ります。各小中学校の児童・生徒数の推計についてを議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

事務局員

3ページ・4ページをご覧ください。令和元年度から令和7年度までの小・中学校ごとの児童・生徒数の推計になります。この後の審議の資

料としてご活用ください。6年間を見通した増減率を表の右端に記載しております。増減率につきましては、現在各校に在籍している児童・生徒数と、6年後の在籍児童・生徒の予測数を比べたものになります。増減率100%は、6年後もほぼ同数、100%を下回ると減少傾向、逆に100%を上回ると増加傾向にあるというようにご覧いただきたいと思います。以上、各小・中学校の児童・生徒数の推計について報告いたしました。ご意見、ご質問等がございましたらお願いいたします。資料の3ページ、4ページをご覧ください。

審議会長 　ただ今、各小・中学校の児童・生徒数の推計についてということで、説明がございました。このことについて、ご質問やご意見等がございましたら、お願いいたします。

審議委員 　小学校の今後6年間の児童数の増加を確認すると、みどりが丘小学校が約2倍になるということですが、これは現在居住している方を対象にしているのでしょうか。これからの開発は加味されているのですか。

事務局員 　このお示ししている推計は、現在の0歳児から6歳児の住民登録者数に、就学率をかけて求めています。就学率は、現在の1年生から6年生までの在校生の数と学区の住民登録者数を割り出している数値です。昨今の少子化の影響もあり、戸建ての戸数に対して係数をかけるという従来の推計の求め方ですと、大幅な目測の誤りを生み出す可能性があるということで、現在は住民登録者数の実数をもとに推計を作成しております。そのため、今後の開発状況は加味されておりません。そのため、提示した推計よりもさらに児童数が増加することが予想されます。この点を踏まえて審議してくださるようお願いいたします。

審議委員 　わかりました。

審議会長 　そのほかに質問ございますか。

　無いようですので、次の議事に移ります。みどりが丘小学校及び新木戸小学校の通学区域の現状と今後の対応についてを議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

事務局員 　それでは、スライドも使って説明いたしますので、資料と併せてご覧ください。資料は5ページになります。前回の審議会におきましてもお伝えいたしました、今後急激に児童数が増加することが予想されております、みどりが丘小学校と隣接する新木戸小学校の通学区域についてご審議いただきたいと考えております。

　資料5ページの①は「みどりが丘小学校と新木戸小学校の平成26年度からの児童数・学級数」の変化です。この5年間で、みどりが丘小学校は平成26年度児童数304名、学級数12から、令和元年度児童数607名、学級数普通学級20、特別支援学級2の合わせて22学級と、児童数が303名の増加、増減率で申しますと200%、学級数は特別支援学級を含めると10学級増加となっております。

　これに対しまして、新木戸小学校は平成26年度児童数782名、学

級数23学級から令和年度児童数590名、学級数普通学級18、特別支援学級2の合わせて20学級と、児童数192名の減少、増減率で申しますと75%、特別支援学級を含んでも3学級の減少となっております。

続いて②「みどりが丘小学校と新木戸小学校の次年度以降の児童数・学級数」についてです。こちらの資料は本年度5月1日時点の住民登録者数をもとに各校の就学率を踏まえて算出を行ったものであり、資料3ページのを2校抜粋したものととなります。

みどりが丘小学校は、今後も児童数は増加を続け、6年後の令和7年度には1200人を超える児童数となる見込みです。現在、みどりが丘小学校では、使用可能な教室が24教室となり、現在の特別支援学級が2学級あることを踏まえると、ここ数年で、教室が足りなくなる恐れがあります。

これに対して、新木戸小学校は、次年度以降も多少の増減はありますが、児童数が600人弱と横ばい傾向となっております。なお、新木戸小学校の使用可能教室数は35教室となっております。

ここで1学級あたりの児童・生徒数に関する学級編制の基準（定数）と弾力的措置につきまして、少しご説明いたします。スライドをご覧ください。学級編制の基準につきましては、1学級の児童生徒数を小学校第1学年は35人、それ以外の学年は40人を標準としております。しかし、近年、弾力的措置が適用されるようになり、小学校第1学年から第3学年までを35人、第4学年から第6学年までを38人とすることが可能になりました。

また、中学校におきましても、中学校第1学年は1学級35人、第2・第3学年を38人とすることが可能になりました。現在、多くの学校が弾力的措置を取っております。

具体的なみどりが丘小学校と新木戸小学校の年齢別児童数については、③、④をご覧ください。みどりが丘小学校については、0～5歳児の学齢前児童数の増加傾向が顕著であります。今年度卒業する学級数は2学級に対して、来年度入学する学級数が5学級と学級数が年々増加することが想定されます。

それに対して、新木戸小学校の学齢前児童数はおよそ90人前後と3学級で推移していくことが見込まれます。以上6ページの資料となるみどりが丘小学校と新木戸小学校の通学区域の現状と今後の予測となっております。

最後に、資料6ページ⑤「みどりが丘小学校 町丁別年齢別児童数推計」をご覧ください。みどりが丘小学校の通学区域においては、表1段目の「緑が丘1丁目」、表3段目の「緑が丘西1丁目」、表5段目の「緑が丘西3丁目」、表9段目の「緑が丘西7丁目」において児童数が多くなっております。また、ほとんどの地区において、6歳～12歳の

現在の小学生児童よりも、0歳～5歳の学齢前児童の方がかなり多いことが読み取れます。

なお、緑が丘西1丁目においては、本年秋入居開始予定のマンションが現在建設・販売中であり、総戸数は359戸を予定している模様です。さらに、0～12歳までの児童が増えることが予想されます。

以上、みどりが丘小学校と新木戸小学校の通学区域の現状と今後の対応報告いたしました。ご意見、ご質問等がございましたらお願いいたします。

審議会長 　ただ今事務局より、みどりが丘小学校及び新木戸小学校の通学区域の現状と今後の対応について説明がございました。これより委員の皆様のご意見やご質問を受けたいと思います。ご意見やご質問がございましたら挙手をお願いいたします。

　　ごさいませんか。無いようですので、本日の会議前に実施した現地視察からのご意見やご感想を委員の皆様からお願いいたします。

審議委員 　古くから八千代市に住んでいますが、ずいぶんと緑が丘地区が変わってきたと感じました。あれほどの宅地になるとは思っていませんでした。また、時代時代によって住民が多く住む地区も移り変わっています。そのため、通学区域を見直すことはその時、その時で致し方ないと思います。特に、この緑が丘地域においては、今後も人口増加が見込まれているので、将来像を見据えながら検討していく必要があると感じました。ただ、実際に子育てをされている住民の皆様にとっては、ただ、人数のバランスだけで学区が見直されるのは迷惑がかかってしまいますから、その点を考慮しながら考えていきたいです。

審議委員 　私は他県出身ですが、八千代市に転入したときは、まだ八千代緑が丘駅前の大型ショッピングセンターがありませんでした。成田街道が渋滞になった時の迂回路として緑が丘地区を通った時は、畑や林が多かったように思います。その後、道路が整ってきて住民の方が大きく増えたように思います。

審議委員 　緑が丘地区は、5年10年前と大きく変わっていますし、今後10年先にはもっと大きく変化するのだろうと思いました。学区が広いので、通学の安全面もしっかり考えて審議したいと感じました。

審議委員 　みどりが丘小学校開校時と比べると大きく発展したことを強く感じました。また、船橋から通勤する際によく通っているのですが、日々道路の状況が変わってきていましたし、本当に発展著しい地域だと思いました。そのため、通学区域の見直しは致し方ないのですが、やはり住民の方のご理解をいただきながら進めていきたいと思います。

審議会長 　委員の皆様のご意見をいただきましたが、どの方の緑が丘地区の著しい発展から通学区域の見直しを行うものの、住民の方へのご理解を得られるように審議していきたいという点は一致しております。子供たちにとってよりよい学校環境を提供できるようにしていきましょう。

事務局員

それでは、前回も通学区域の変更を町丁別に検討してきたところですが、新年度になりまして事務局より変更案の提示をお願いいたします。

それでは、本日配付いたしました資料をご覧ください。前回の審議会において、提示しました案といたしまして、緑が丘1丁目、緑が丘西1丁目、緑が丘西2丁目にお住いのお子さんの通学区域が、みどりが丘小学校から新木戸小学校へ変更された場合の年齢別児童推計となります。対象となる地域は画面右側の赤く塗られている部分です。変更後のみどりが丘小学校は、数年各学級4学級前後となり、6年後には23学級程度となります。また、新木戸小学校は6年後33学級程度となります。

しかし、この案ですと、緑が丘西1丁目の一部や西2丁目において、新木戸小学校に通うことで通学距離が長くなること、また、現在建設中及び予定中の駅前のマンションに加え、緑が丘西2丁目の工場跡地においても大手デベロッパーによる土地購入があり、今後600戸前後のマンション建設も検討しているという情報もあります。そうしますと現在の1000戸あまりのマンションに加え、さらに600戸となると、今度は新木戸小学校の教室数を上回る恐れがあることが懸念されます。

そのため、通学距離と今後の児童数の推移を踏まえ、別の案を提示いたします。仮に緑が丘1丁目と緑が丘西1丁目の4、5番地及び18～21番地という線路に面した南側の地域にお住いのお子さんの通学区域が、みどりが丘小学校から新木戸小学校へ変更された場合の年齢別児童推計となります。対象となる地域は画面右側の赤く塗られている部分です。変更後のみどりが丘小学校は、どの学年も3学級から5学級前後となり、6年後には27学級程度となります。また、新木戸小学校は各学年4、5学級となり、6年後29学級程度となります。

ご存じのとおり、このままですとみどりが丘小学校の保有教室を上回ることとなりますが、今後の緑が丘地域の児童数の推移を踏まえると、通学区域の再編成とともに、みどりが丘小学校の増築を含んだ教室増に向けた協議を関係部局と行っていく予定です。

今回の推計は、あくまでも、現在のお住いのお子さんの人数をあてはめたものです。今後も緑が丘地域は人口が増える予測です。大きな課題ではございますが、みどりが丘小学校の開校に伴う経緯も含めまして、委員の皆様には十分な審議をお願いいたします。

審議会会長

ただいま事務局から説明がありましたように、通学距離や今後の開発状況も加味いたしまして、町丁をさらに細かく分けた案の提示がありました。ご意見、ご質問等がございましたらお願いいたします。

審議委員

以前、新木戸小学校の大規模化によって、新木戸小学校から西高津小学校、高津小学校へ通学区域を変更した地域がありますが、この地域について、新木戸小学校の児童数が落ち着いてきていることから、また新木戸小学校に変更となったところはありませんか。

事務局員

ございません。

- 審議会長 他にございますか。それでは、ただいま事務局から新たな案が提示されましたが、皆様いかがでしょうか。本日、現地視察も踏まえてご意見をお願いいたします。
- 審議委員 通学区域を変更するときの在校生や兄弟関係をどのように考えていますか。
- 事務局員 みどりが丘小学校開校時には、現在の通学区域にお住いの方については、新木戸小学校に通っている在校生もみどりが丘小学校へ移っていただいた経緯がございます。お子さんをはじめ、ご家庭に大きな負担がありました。このような点を踏まえまして、今後、委員の皆様には審議していただくこととなりますが、事務局としましては、在校生やお住いの方々に十分配慮できるようにしたうえで通学区域の変更を審議していただきたいと考えております。なお、在校生につきましては、ただいま申し上げ点に加えまして、通学区域の変更によって移っていただいたとしても大きな学級数の変容にはつながらないことから、原則はそのままみどりが丘小学校へ通っていただきと考えております。
- 審議委員 昔の新木戸小学校の通学区域の変更を思い出すと、いろいろと配慮することがありますよね。みどりが丘小学校の保有教室数が24学級ですが、今後のことを考えると増築等の検討は必要だと思いますね。増築しても昨今の開発状況から通学区域の変更が必要であることを住民の皆様には説明していきたいと思えます。もちろん今回の通学区域の変更は、遠くに通っていただいていた方々が近くの学校になるということですが。
- 事務局員 今まで説明しておりますが、教室増についても検討する必要があります。しかしながら、今後の人口増を考えると今、新木戸小学校に保有教室に余裕があるからと移っていただくということではないことはお分かりだと思います。通学区域と学校規模の適正についてを合わせて考えていく必要があるかと存じます。本審議会においては、通学区域を審議するものとなりますので、皆様には通学区域の観点からご審議いただけたらと思えます。
- 審議委員 在校生をそのまま通っていいとなると、その弟さんや妹さんはどうなりますか。
- 事務局員 その点についても今後、皆様には審議していただきたいと考えております。本市の就学指定校変更の許可事由には、兄弟姉妹の通っている学校へは通学区域外であっても通うことができます。この点との整合性も踏まえた上で皆様には
- 審議委員 それでは、そういうお子さんの数も把握したうえで今後審議する必要がありますよね。どちらの学校にどれくらいのお子さんが入学するかということも踏まえて検討する必要があると思えます。その点も踏まえて増築が必要かどうかもわかってくるのではないのでしょうか。
- 事務局員 おっしゃる通りでございます。
- 審議委員 まだ空き地になっているところが住宅になったり、工場の跡地に大型

集合住宅ができたりすることを考えると、将来、みどりが丘小学校と新木戸小学校の2つで教室数は足りるのでしょうか。

事務局員 今後の動向を踏まえながら、審議を重ねていただく必要があると考えております。その都度、審議の際には新しい推計等を提示してまいりたいと存じます。

審議委員 みどりが丘小学校の開校に向けて、審議した際には、八千代緑が丘駅北側の開発はゆっくり行われていくという話でしたが、ここ数年は、学校周辺の住宅も増えましたし、駅北側には大型集合住宅がたくさん建ちましたから、最大の想定をしながら検討していきたいです。

審議委員 数字では出せなくても、今事務局から説明されたことを、私たち委員がしっかりと考えてないといけませんね。

事務局員 このままの通学区域では、明らかにみどりが丘小学校が大規模化となり、新木戸小学校は今の学級数と変更がないことが予測されています。また、みどりが丘小学校の通学区域で人口増加著しい地域は、駅北側の大型集合住宅を含めた緑が丘1丁目と緑が丘西1丁目となっています。この地域については通学距離が新木戸小学校の方が近いため、今までも新木戸小学校へ入学したい、通学したいといったご意見が複数ありました。増築、教室増の話もありましたが、本審議会において、まずは通学区域の変更の必要性は委員の皆様お感じになっているところと存じますので、その点を中心に今後は審議を行っていただきたいと考えております。

審議委員 見通しとして10年後はどうなるかわかりますか。

事務局員 教育委員会だけでは、まだ生まれていないお子さんを対象とした推計を提示することが大変難しいです。人口推計となりますと統計調査を基に大規模な算定が必要です。そのため、現在、市長部局と連携を取りながら、通学区域ごとの人口推計を算定できるように調整中です。ただ、すぐに調査結果が出るものではありません。そのため、本審議会においては、まずは通学区域を変更することで、児童の学校教育環境を整えてまいりたいと存じます。

審議会長 ただいま、みどりが丘小学校の教室が足りなくなる恐れがあるという議論がなされているわけですが、教育委員会として、みどりが丘小学校の増築や教室増についてはどのように考えていますか。

教育次長 担当からもありましたように、関係部局と協議しながら、児童数の推計を精査していかねばならないと認識しております。ここ数年の動向をみると、新木戸小学校の空き教室に可能な限り入っていただくような通学区域の変更をただけでは、十分ではないだろうという見込みでございます。そのため、増築や教室増等と通学区域の変更の両面から考えていかねばならない問題です。ただ、この審議会におきましては、まずさしあたって通学区域の変更によってご対応をお願いしたいことと存じます。もちろん、教育委員会といたしまして、増築等につきましては関



係部局と協議を今後も重ねてまいりたいと存じます。

審議会長

教育次長からもありました通り、増築等と通学区域の変更の両面から対応していくこととなっておりますので、委員の皆様には、さきほど事務局より提示された案をもとに通学区域の変更の審議を今後行っていただくことということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、今回提示された案をもとに、さらに審議を重ねることでより良い案があればそちらも検討していくということでお願いいたします。

それでは、次の議題に移ります。「八千代市内の許可学区について」を議題としたいと思います。事務局の説明をお願いいたします。

事務局員

それでは、八千代市内の許可学区及び次の議事であります通学区域に対する要望についてご説明いたします。資料をご覧ください。「八千代市立公立学校許可学区一覧」となります。許可学区は資料のとおりです。今回の審議会におきましても、6番「吉橋工業団地工業用途地域」と7番「はぐみの杜中学校通学区域」が深く関連しております。

6番「吉橋工業団地工業用途地域」については、スライド左側となります。睦小学校へのバス通学の利便性と通学距離を勘案し、平成24年4月1日から、みどりが丘小学校の大規模化に影響を与えることのない当分の間、保護者の申し出により、睦小学校からみどりが丘小学校への就学指定校の変更を認めるものとなります。

また、7番「はぐみの杜中学校通学区域」は平成26年4月1日より再編成された睦中学校・高津中学校の通学区域において、みどりが丘小学校の通学区域の中で睦中学校区となっている地域を保護者の申し出により、睦中学校から高津中学校への就学指定校の変更を認めるものとなります。当初は、地番によって分けられており、大和田新田が高津中学校、吉橋が睦中学校となっております。その後、緑が丘西、いわゆるはぐみの杜の開発におきまして、今後の人口増及び通学距離等を勘案いたしまして通学区域を再編成された地域となっております。通学区域の再編成時は道路状況も十分でなかったことから、資料にもありますように、「開発が進み、生徒の通学における安全が確認するまで」ということで当初6年間という期間を決めて許可学区といたしました。5年経過した際に、本審議会でも再度審議することとなっております。本年度がその審議対象となっております。

また、この件につきましては、前回の審議会でもお伝えしました通り許可学区の継続及び通学区域に対する要望も出ております。緑が丘西自治会長様より、緑が丘西全てを高津中学校の学区にしてほしいとの要望があります。その点も踏まえ、中学校区の許可学区を今後どうしていくべきか、現時点での委員の皆様のご意見をいただき、それを参考に次回の審議の資料等を整えていきたいと考えております。

審議会長

現在の高津中学校の空き教室や今後の推計について等はどうなっておりますか。

- 事務局員 高津中学校には多少の空き教室があると聞いております。また、推計上は、今後6年間も横ばい傾向であると思います。しかし、人口増加著しいことから今の推計上のなることも予想されます。
- 審議委員 高津中学校は、生徒数が多いことや駅周辺、国道を横断することから自転車の通学は厳しいと思います。となると、徒歩での通学となりますが、通学距離がたいぶ長いことが心配されます。
- 審議委員 高津中学校と睦中学校の中間地点あたりで、通学区域が分かれていますよね。
- 事務局員 次回の審議では、具体的な地図等も提示して説明いたします。
- 審議委員 今は小学校が増えているということは、当然その児童が、中学生になることを考えるとどれくらいを見通して審議すればよろしいですか。
- 事務局員 その点も踏まえまして次回の審議で慎重に検討していただきたいと存じます。
- 審議会長 許可学区については、もう少し細かい資料を用意していただいて次回に審議することとしましょう。それでは、今後の日程について説明をお願いします。
- 事務局員 今後の日程につきましては、通学区域の変更に向けた審議を継続して行っていただくこととなります。夏季休業中となりますが、次回の日程が決まり次第ご連絡いたします。加えまして、さきほど提示いたしました許可学区についても慎重な審議をお願いする予定でございます。
- 審議会長 それでは、その他として事務局よりお願いいたします。
- 事務局員 八千代市学校適正配置検討委員会では、前任期間の2年間で、旧八千代台東小学校と旧八千代台東第二小学校の統合について、義務教育学校の利点・留意点についてそれぞれ調査・研究を行い、その成果については、平成31年3月に教育長に報告しました。今年度からの任期期間では、8月に第1回目の委員会を開催する予定でございます。
- また、阿蘇・米本地域の学校適正配置につきましては、すでに検討は終わっておりますが、経過を報告させていただきます。平成27年10月の答申を受けまして、阿蘇・米本地域の学校適正配置につきましては、施設一体型の小中一貫校（義務教育学校）の設立を目指してまいりました。しかし、設立のために検討を進める中で、阿蘇中の位置で小中学生が共に生活することへの保護者の不安、通学路の安全確保、義務教育学校設立のための財源の確保等の課題が明確となりました。そこで、平成30年12月から平成31年2月にかけて5回にわたる庁内調整委員会を開催し、方針の変更について検討を行い、施設分離型の小中一貫校の計画を作成いたしました。平成31年2月6日に定例教育委員会で承認されました。その後、平成31年2月19日に議員説明会を開催し、平成31年3月19日に市長の決裁を得ました。平成31年3月26日に行われました総合教育会議におきましても、それらのことが確認されました。また、今回の計画につきましては、令和元年5月15・1

6日に保護者、地域の方を対象に説明会を行いました。そこでいただいた御意見をもとに、7月30日に再度、説明会を実施する予定でございます。

今後も、説明会でいただいた御意見をもとに、保護者、地域の方々に御理解を得られるように、丁寧に説明を行ってまいりたいと考えております。以上です。

審議会長

ありがとうございました。委員の皆様その他にございますか。無いようですので、これによりまして、議事全てが終了いたしました。長時間にわたりご審議ありがとうございました。それでは、令和元年度第1回八千代市通学区域審議会を終了いたします。ご苦勞様でした。